ＪＲ東海労なごや

2009年　２月　９日　No. 758号
JR 東海労名古屋地方本部
発行者：　丹　羽　成　生
編集者：　教　宣　部

リニア建設と命を守るどちらが大切なの？

リニア建設には積極的！それに比べて命を守るのに投資を拒むＪＲ東海

人間はミスをするもの

それは甘えではない、安全に対する哲学なのです。ですから原発や航空会社は安全のために投資を惜しまないのです。つまり原子力発電所や飛行機等の事故など、1つのヒューマンエラーが多くの人命を一度に奪ってしまいます。そのような見地からアメリカの航空産業は安全工学が発展し、結果ヒューマンエラーなど個人的な資質の問題よりも、教育や装置などシステム全体を考え必要な投資は行うという対策がとられています。

今ＪＲ東海では、すべて基本動作の欠如としてかたづけられ、一切の責任を現場社員に押しつけられています。安全に完全はありません。リニアの投資には大盤振る舞いのＪＲ東海。人の命に関わる投資にはなぜこんなに消極的なのでしょう？

これ以上基本動作を増やされたのではたまったものではありません。お客様同様私たちもリラックスして安心して働きたいものです。

中日新聞（夕刊）

2009年(平成21年)1月31日(土曜日)

ＪＲの在来線で、運転士がドア開閉を扱う普通列車のワンマンカーで、ホーム側と反対側を開ける誤操作が相次いでいる。ＪＲ西日本では過去10年間に60件発生、ＪＲ東海でも年初に１件が発生した。乗客の転落事故につながる危険があり、防止策が課題だ。目視確認の徹底に加え、設備による二重の対策も始まっている。

相次ぐ 列車ドア誤操作

「目視だけでは限界」

ＪＲ東海ではことし一月九日にＪＲ武豊線半田駅（愛知県半田市）で、普通列車（二両編成）の運転士が右側ドアを開けるべきところを、左側を開けた。ホームの位置を確認しなかったのが原因だ。二〇〇六年四月三日にも身延線の源道寺駅（静岡県富士宮市）で、普通列車（一両）が誤って右側を開けた例があり、過去三年間に二件の誤操作が起きた。

ＪＲ東海は、運転士が指差し確認しながら運転席窓から装着ミラーを見てホームが左右どちらかを見るよう指導。左側を開けるときは左手で、右側は右手で開閉スイッチを扱う決まりだが、基本動作を怠ると誤操作が起きている。

同社は「基本動作にのっとってやれば、防げる」との立場だが、身延線の事例以降、ドアのスイッチに金属製の誤扱い防止カバーを装着。操作前に一呼吸置いて確認を促す仕掛けを施した。それでも武豊線のようにミスが起き、目視頼みの危うさも見える。

一方、尼崎ＪＲ脱線事故後、事故防止策に傾注するＪＲ西日本は同様の目視確認に加え、車両に取り付けた超音波センサーで、ホームの位置を確認する「ドア誤扱い防止システム」を開発。二月から導入し、十億円をかけて五カ年計画で広げる。誤操作が多発している同社は「指差し確認だけでは限界がある。バックアップシステムで防ぎたい」とする。

ＪＲ西が防止装置　東海は対策遅れ